

根室管内における乳房炎の発生状況とその対策

根室管内で発生している病傷事故のうちおよそ半分が乳房炎をはじめとする泌乳器病です（北海道NOSAI・H24）。乳房炎は、依然として乳牛で最も多い病気となっています。

乳房炎の発生は、酪農家にとって非常に大きな損失であり、限られた労働力のなかで精神面からもその対策が必要です。「うちは乳房炎になっても構わないよ。」とと思っている酪農家は、どこにもいません。

乳房炎の少ない酪農家は、「とにかく食べさせている」「牛体をきれいにしている」「乳頭を徹底的に拭いている」「過搾乳は絶対にしない」「牛舎が明るい」など、ポイントを押さえた作業を行っています。

一方、乳房炎が多く、少しでも乳房炎を減らしたいと思っている酪農家では、「牛舎が暗い」「すべての作業が煩雑化している」「これまで行ってきたことをやめて新しいことを取り入れることへの不安感」など、物理的、労働的又は心理的な理由により、作業のポイントを逃してしまっているケースも少なくありません。

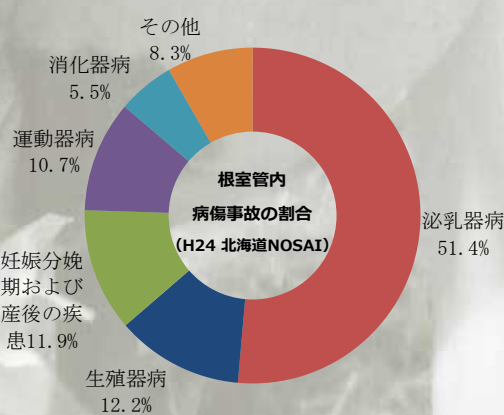


図1 根室管内における病傷事故の発生状況
(北海道NOSAI 平成24年)

乳房炎対策は、概ねつぎのことに集約されます。

- ・栄養、環境、管理からの牛へのストレスをできるだけ少なくする
- ・細菌の少ない飼養環境を整えて牛体をきれいにする
- ・正しい（とくに乳頭口を傷めない）搾乳手法を実践する
- ・正常な泌乳を妨げない搾乳システムを維持する

これらを管理・実践するのは「人」、すなわち酪農家の皆さんです。また、作業の質を上げるには、農場で働く人が気持ちよく仕事ができる工夫や仕組みづくりが大切です。



上記の対策をバランス良く実践することが、乳房炎の安定的な予防につながります。